ULVAC

証券コード：6728

ULVAC REPORT 2014

第110期 事業報告書 2013.7.1～2014.6.30

事業構造改革から成長フェーズに転換し、新たなステージへ

将来の成長に向けた戦略的研究開発投資の促進

代表取締役執行役員社長
小間久治

Q1 当期（2014年6月期）の営業状況と成果についてお聞かせください。

売上高、利益ともに前期比増加

売上高に関しては、1,739億円と前期を100億円強上回ることができました。

売上高の内容を見ますと、当期はFPD及びPV製造装置、半導体及び電子部品製造装置、コンポーネント、一般産業用装置、材料のいずれもが前期に比べて増加し、特に半導体及び電子部品製造装置が大きく伸びました。

また、利益面では、営業利益・経常利益は、売上高の増加効果に加え、半導体及び電子部品製造装置ならびに分析機器・成膜を含む真空応用事業などにおいて、利益率の高い案件のタイミングが重なったこともあり前期に比べ大幅に増加し、各々120億円、134億円となりました。

1. 業績の推移・予想 (単位：億円)

	13/6期	14/6期		15/6期予想
		実績	前期比	通期
受注高	1,668	1,698	30 (+2%)	1,700
受注残高	725	672		622
売上高	1,634	1,739	105 (+6%)	1,750
売上総利益	370	426		
率	22.6%	24.5%		
販管費	308	307		
営業利益	61	120	59 (+96%)	90
率	3.7%	6.9%		5.1%
経常利益	63	134	71 (+114%)	85
率	3.8%	7.7%		4.9%
特別利益	3	25		
特別損失	71	7		
税金費用他	32	36		
当期純利益	-38	115	153	65

2. 自己資本・有利子負債の推移 (単位：億円)

また、当期純利益につきましては、子会社株式・不動産の売却を中心に特別利益25億円を計上したこともあり過去最高の115億円を達成いたしました。

「営業本部」の拡充が奏功、中国・東南アジアで成果

営業面では、前期に実施した販売体制の確立に続き、当期はグローバル展開を強化すべく、当社の「営業本部」を拡充いたしました。

これは営業本部が、当社と海外子会社の営業活動の連携を促進し、一元的に統括することで、グローバルでの受注獲得に向けたアプローチをより効果的に進めていくことが目的です。当期は、中国・東南アジアの営業展開において成果を上げ、特に中国ではFPD製造装置の大型案件獲得につながりました。今後とも顧客企業の生産活動が国境を越えて拡がっていく動きに対応し、グループ内の営業活動の協調・最適化を図り、シナジーを発揮していきます。

資産のスリム化により、財務健全化も進展

財務体質の健全化にも大きな進展が見られました。

棚卸資産の削減や売掛債権の圧縮、固定資産の処分等を推進し、資産のスリム化を進めました。これにより、ネット有利子負債（有利子負債－現金預金）の水準は2年前の918億円から320億円にまで減少いたしました。この間、自己資本比率は14.8%から29.2%に改善しています。

Q2 2015年6月期の見通しをご説明ください。

戦略的な研究開発投資の増加等により、減益を予想

2015年6月期の売上高見通しについては、FPD製造装置は、「テレビ用有機EL製造装置」への投資が延期・縮小傾向にあり、前期比減少する見込みですが、半導体及び電子部品製造装置の需要拡大が続くこと等から全体としては、前期比微増の1,750億円を予想しています。

一方、利益面につきましては、成長に向けた戦略的な研究開発投資を増加させること、価格競争のさらなる激

3. 研究開発費の推移・予想 (単位：億円)

4. 中期経営計画　数値目標 (単位：億円)

	13/6期 実績	14/6期 実績	15/6期 予想	16/6期 目標	17/6期 目標
受注高	1,668	1,698	1,700	1,900	2,000
売上高	1,634	1,739	1,750	1,900	2,000
営業利益	61	120	90	130	160
営業利益率	3.7%	6.9%	5.1%	6.8%	8.0%
経常利益	63	134	85	120	150
当期利益	-38	115	65	90	110

化を見込んでいること、特別利益の計上を見込んでいないこと等から前期比減益となる営業利益90億円、経常利益85億円、当期純利益65億円を予想しています。

開発力と営業力を強化し、成長フェーズへ転換

当社は2015年6月期より「構造改革から成長フェーズへの転換」をテーマに掲げ、「開発力の強化」と併せて「営業力の強化」に取り組んでいきます。損益分岐点売上高の上昇を極力抑えるべく、「コスト競争力の強化」を進めていきます。

「開発力の強化」では、将来の成長に向けた新しいビジネスを開拓すべく、3年から5年先を見据えた8つの重要領域を設定しました。具体的には、当社の得意分野である「不揮発性メモリ」、超微細化配線に対応した「半導体」と高密度な「実装技術」、省エネルギー化に寄与する「LED」「パワー半導体」、環境性能の向上や操縦の自動化が進んでいく「自動車関連」、次世代の要素技術を必要とする「フレキシブルディスプレイ」、再生可能エネルギーとして中長期の需要が見込める「太陽電池製造装置」、の8領域です。

そして「営業力の強化」として、前述の「営業本部」の機能をさらに強化し、日本・海外におけるビジネスユニットごとの営業戦略を打ち出し、これに基づいて各国の営業部門が協調し合いながら営業活動を展開していきます。

Q3 中期経営計画の見直しについてその背景や内容についてご説明ください。

現中期経営計画は、2013年6月に「価値創造型ビジネスモデルの再構築（真空技術を核とした付加価値を高める仕組みの再構築）」、「不採算事業の見直し」、「損益分岐点売上高の引下げ」を基本方針として、「確実・安定的に収益確保できる体制の確立」をめざし策定したものです。

事業領域については、「FPD及びPV製造装置」「一般産業用装置」「コンポーネント」が継続的に下支えする中、「半導体及び電子部品製造装置」が成長を牽引していくシナリオとなっております。

初年度にあたる当期につきましては、受注高・売上高は当初予想を下回りましたが、営業利益・経常利益・当期純利益は当初予想を上回る結果となりました。

2015年6月期以降も、現中期経営計画で掲げる基本方針や事業領域に関する基本シナリオについては変えることなく事業を推進してまいりますが、①戦略的な研究開発投資を当初想定より増加させること、②FPD及びPV製造装置の市場で、当初想定していた「テレビ用有機EL製造装置」への投資が延期・縮小傾向となってきたこと、③今後の価格競争環境についてより厳しめに見込んだこと、等から数値目標の見直しを行うとともに、最終年度を1年延長することといたしました。

Q4 グローバル化への対応を強化するために、どのような体制づくりを進めていますか？

海外生産機能を最適化し、品質保証体制を構築

営業面については、日本・海外の営業活動を統括する「営業本部」体制についてご説明申し上げましたが、生産面では2013年7月に「グローバル生産企画室」を設置しています。その目的は、当社グループによる日本・海外の生産活動全体を俯瞰し、地域ごとに最適な生産能力の規模と配置を検討しながら、生産拠点間の機能分担と連携を図っていくことにあります。

また、グローバルなアルバックブランド・品質保証体

制を強化し、ISO9000/14001グローバル統合認証の導入を積極的に進めるなど当社グループの品質・安全性の向上に努めています。

グループ全体でものづくりのマンパワーを向上

グローバル対応を進めていく上でカギとなるのは、やはり人材育成です。生産現場における技術力や管理能力のレベルを引き上げ、全世界の拠点で高品質なものづくりを実現するべく、当社では2014年から「ULVAC Globalものづくり研修会」をスタートしました。中国や東南アジアのグループ会社10社から生産関連部門の人員を集め、「ものづくり」の考え方について研修を行うものです。

このような取り組みや、エンジニア教育などへの注力により、当社グループ全体でものづくりのマンパワーを高めながら、組織を活性化させる人事評価制度の導入等も進めていきます。

Q5 株主様ならびにステークホルダーの皆様へのメッセージをお願いします。

皆様の期待と信頼に応える企業として、さらに前進

グループ全体が一丸となった事業構造改革の取り組みにより、当社はこの2年間で利益を創出する力を着実に高めてきました。

しかしながら、当期の普通株式の配当につきましては、市場環境が依然として不透明な中、これまで進めてきた事業構造改革をさらに推進するとともに、環境変化に耐えうる財務基盤の強化がなお必要な状況にあることから、誠に遺憾ながら無配とさせていただきました。株主の皆様には、深くお詫びいたします。

なお、2015年6月期の普通株式の配当については、現時点では未定とし、改めて公表いたします。何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

これからは、確実・安定的な収益確保に努めつつ、成長フェーズへの転換に向けて、積極的な研究開発投資を行っていきます。そして、事業環境の変化を飛躍のチャンスと捉え、ものづくりの力とそれを支える人材及び組織の力を結集していくことで、新しい価値の創造に果敢に挑戦し、産業と科学の進化と発展を支えていきたいと思っています。

当社は皆様の期待と信頼に応える企業として、これからも前進してまいります。引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事業別概況

真空機器事業 Vacuum Equipment Business

FPD及びPV製造装置

FPD関連では、受注高は日本、韓国向けの中小型液晶ディスプレイ製造装置、台湾、中国向けの大型液晶ディスプレイ製造装置が寄与いたしましたが、前期に比べて減少いたしました。一方、売上高は日本、中国及び韓国向けに中小型液晶ディスプレイ製造装置が、中国向けに大型液晶ディスプレイ製造装置、有機EL製造装置が寄与し、前期に比べて増加いたしました。

半導体及び電子部品製造装置

半導体関連では、モバイルDRAM、NANDフラッシュメモリ用スパッタリング装置や自然酸化膜除去装置、電子部品関連では、パワー半導体やモバイル端末向け高機能デバイス用スパッタリング装置などが寄与し、受注高、売上高ともに前期に比べて増加いたしました。

コンポーネント

コンポーネント関連では、受注高は下期に入り一服感が見られ、前期に比べて減少いたしましたが、売上高は半導体、電子部品、自動車関連の設備投資が堅調だったこともあり、前期に比べて増加いたしました。

一般産業用装置

一般産業用装置関連では、主に自動車部品用真空熱処理炉、ヘリウムリークテスト装置、高性能磁石用真空熱処理炉、医薬品用凍結真空乾燥装置などが寄与し、受注高、売上高ともに前期に比べて増加いたしました。

真空応用事業 Vacuum Application Business

材料

不採算事業の見直しなどにより受注高は前期に比べて減少いたしましたが、スパッタリングターゲット材料関連を中心に売上高は前期に比べて若干増加いたしました。

その他

マスクブランクス関連では、スマートフォンやタブレットPCの好調を受け、堅調に推移いたしました。

分析機器関連では、日本の民間企業向けを中心に堅調に推移いたしました。

事業別売上高

地域別売上高

アルバックこの一年

2013 7 8 9 10 11 12 2014 1 2 3 4 5 6

▶2013年8月 第11回産学官連携功労者表彰 経団連会長賞

AWARD

アルバックは、第11回産学官連携功労者表彰において、「産学垂直連携・共同研究体「TPEC」の創成」への貢献が評価され、産業技術総合研究所（産総研）様、富士電機株式会社様とともに日本経済団体連合会会長賞を受賞しました。

▶2013年9月 微生物活性計測システム「Spica」「Antares」「Leonis」を販売開始

TECHNOLOGY

アルバック理工㈱は、微生物活性計測システム「Spica」「Antares」「Leonis」をけいはんな文化学術協会と協力、開発し、販売を開始しました。これらは、食の安心・安全が重要になってきている昨今、食品の微生物汚染を予測する確実で信頼性の高い手段として、本製品が幅広い分野で応用されることが期待されています。

▶2013年10月 「ZEM-5」が「神奈川工業技術開発大賞　奨励賞」を受賞

AWARD

アルバック理工㈱は、熱電特性評価装置の従来モデル「ZEM-3」をベースにして薄膜や高温用途別に特化した「ZEM-5」を開発し、「神奈川工業技術開発大賞　奨励賞」を受賞しました。

▶2013年10月 薬事法における「医療機器製造業許可」を取得

TECHNOLOGY

アルバック機工㈱は、薬事法における「医療機器製造業許可」を取得しました。
今後、九州保健福祉大学などと共同開発を開始した「痰の自動吸引機」の実用化を図るとともに、医療機器の販売まで可能となる「医療機器製造販売業許可」の取得を目指します。

▶2013年11月 光学式プロセスモニタ「Optius」を販売開始

TECHNOLOGY

アルバックは、プラズマの発光スペクトルを測定することでプラズマプロセスの監視及び制御を行う、光学式プロセスモニタ「Optius」を開発し、販売を開始しました。

▶2014年2月 友達光電様から2013年度「ベスト装置サプライヤー賞」を7年連続して受賞

AWARD

アルバックは、台湾の大手ディスプレイパネルメーカー友達光電様より2013年度の「ベスト装置サプライヤー賞」を受賞しました。

▶2014年3月 高速分光エリプソメータ「UNECS シリーズ」に新モデル大幅拡充

TECHNOLOGY

アルバックは、薄膜の膜厚や屈折率の高速・高精度な測定とコンパクト化を実現する高速分光エリプソメータ「UNECS シリーズ」に新モデルを追加し、ラインナップを大幅に拡充しました。

▶2014年4月 極低温冷却装置をラインナップに追加

TECHNOLOGY

アルバック・クライオ㈱は、岩谷瓦斯株式会社エンジニアリング事業部様から低温機器製造に関連する製造技術とそれに関わる製造設備を譲り受け、極低温冷却装置をラインナップに加えることが出来るようになりました。さらに極低温要素技術を取得し、成長著しい超伝導、医療機器分野への参入を促進します。

▶2014年6月 リークディテクタ「HELIOT 900シリーズ」を販売開始

TECHNOLOGY

アルバックは、リークディテクタの新モデル「HELIOT(ヘリオット) 900シリーズ」を開発し、販売を開始しました。
「HELIOT 900シリーズ」は従来モデルと比べ、排気能力と利便性が大幅に向上しており、検査時間の大幅短縮を実現します。

□ 連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当連結会計年度 2014年6月30日現在	前連結会計年度 2013年6月30日現在
資産の部		
流動資産	145,783	153,569
現金及び預金	57,669	44,603
受取手形及び売掛金	46,341	59,525
たな卸資産	34,352	43,927
繰延税金資産	1,774	1,471
その他	6,006	4,606
貸倒引当金	△360	△564
固定資産	85,008	89,720
有形固定資産	66,901	71,808
建物及び構築物	38,511	41,093
機械装置及び運搬具	15,689	16,369
その他	12,700	14,346
無形固定資産	5,010	5,379
投資その他の資産	13,097	12,534
投資有価証券	4,130	3,882
繰延税金資産	2,384	2,204
その他	6,584	6,448
資産合計	230,791	243,289

（単位：百万円）

科　目	当連結会計年度 2014年6月30日現在	前連結会計年度 2013年6月30日現在
負債の部		
流動負債	122,148	144,061
支払手形及び買掛金	28,700	28,651
短期借入金	69,242	82,750
その他	24,206	32,660
固定負債	36,404	39,792
社債	—	20
長期借入金	20,364	23,358
繰延税金負債	1,850	1,431
その他	14,191	14,983
負債合計	158,552	183,853
純資産の部		
株主資本	66,474	54,998
その他の包括利益累計額	908	320
少数株主持分	4,856	4,119
純資産合計	72,238	59,436
負債純資産合計	230,791	243,289

売上高（単位：百万円）

経常利益（単位：百万円）

当期純利益（単位：百万円）

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当連結会計年度 2013年7月1日から 2014年6月30日まで	前連結会計年度 2012年7月1日から 2013年6月30日まで
売上高	173,878	163,351
売上原価	131,231	126,389
売上総利益	42,646	36,962
販売費及び一般管理費	30,651	30,847
営業利益	11,996	6,115
営業外収益	3,699	3,120
営業外費用	2,311	2,971
経常利益	13,384	6,264
特別利益	2,471	283
特別損失	718	7,112
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	15,137	△565
法人税、住民税及び事業税	2,805	2,347
法人税等調整額	3	202
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失(△)	12,329	△3,114
少数株主利益	791	693
当期純利益又は当期純損失(△)	11,538	△3,807

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

（単位：百万円）

科　目	当連結会計年度 2013年7月1日から 2014年6月30日まで	前連結会計年度 2012年7月1日から 2013年6月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	32,213	22,357
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,023	△4,506
財務活動による キャッシュ・フロー	△16,881	△3,619
現金及び現金同等物に係る換算差額	500	1,616
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	12,808	15,849
現金及び現金同等物の期首残高	44,204	28,180
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	―	175
現金及び現金同等物の期末残高	57,012	44,204

連結株主資本等変動計算書 当連結会計年度（2013年7月1日から2014年6月30日まで）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
2013年7月1日　残高	20,873	37,100	△2,966	△10	54,998	333	△13	―	320	4,119	59,436
連結会計年度中の変動額											
連結範囲の変動			△62		△62						△62
当期純利益			11,538		11,538						11,538
自己株式の取得				△0	△0						△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						40	1,938	△1,389	589	737	1,326
連結会計年度中の変動額合計	―	―	11,476	△0	11,476	40	1,938	△1,389	589	737	12,802
2014年6月30日　残高	20,873	37,100	8,510	△10	66,474	372	1,925	△1,389	908	4,856	72,238

単体財務諸表

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

単体貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当事業年度 2014年6月30日現在	前事業年度 2013年6月30日現在
資産の部		
流動資産	81,092	94,507
固定資産	73,008	79,093
有形固定資産	39,626	42,945
無形固定資産	4,304	4,628
投資その他の資産	29,078	31,520
資産合計	154,100	173,600
負債の部		
流動負債	84,737	106,104
固定負債	24,853	27,077
長期借入金	18,803	20,069
退職給付引当金	4,643	5,253
その他	1,407	1,755
負債合計	109,590	133,180
純資産の部		
株主資本	44,161	40,112
評価・換算差額等	349	308
純資産合計	44,509	40,420
負債純資産合計	154,100	173,600

単体損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当事業年度 2013年7月1日から 2014年6月30日まで	前事業年度 2012年7月1日から 2013年6月30日まで
売上高	87,911	84,401
売上原価	71,184	68,516
売上総利益	16,727	15,885
販売費及び一般管理費	14,012	15,278
営業利益	2,714	607
営業外収益	3,197	10,586
営業外費用	1,693	2,473
経常利益	4,218	8,720
特別利益	771	213
特別損失	659	6,624
税引前当期純利益	4,330	2,309
法人税、住民税及び事業税	376	831
法人税等調整額	△95	△33
当期純利益	4,049	1,511

単体株主資本等変動計算書 当事業年度（2013年7月1日から2014年6月30日まで）

（単位：百万円）

	株主資本										評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
		その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計					
					固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金						
2013年7月1日　残高	20,873	37,100	37,100	529	980	30,206	△49,567	△17,853	△9	40,112	308	308	40,420
事業年度中の変動額													
固定資産圧縮積立金の取崩					△94		94	—		—			—
当期純利益							4,049	4,049		4,049			4,049
自己株式の取得									△0	△0			△0
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）											41	41	41
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	△94	—	4,143	4,049	△0	4,049	41	41	4,090
2014年6月30日　残高	20,873	37,100	37,100	529	886	30,206	△45,425	△13,804	△9	44,161	349	349	44,509

会社データ／株式の状況

会社概要 2014年6月30日現在

商　　号	株式会社アルバック ULVAC, Inc.
商　　標	ULVAC
本　　社	神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
設　　立	1952年8月23日
資 本 金	20,873,042,500円
従業員数	1,105名（連結5,971名）

役　員 2014年9月26日現在

代表取締役執行役員社長	小日向久治
取締役専務執行役員	坊　昭範
取締役常務執行役員	本吉　光
取締役常務執行役員	末代　政輔
取締役執行役員	小田木秀幸
取締役（社外）	御林　彰
取締役（社外）	池田　修三
常務執行役員	中村　静雄
常務執行役員	岩下　節生
執行役員	平野　裕之
執行役員	中村　孝男
執行役員	齋藤　一也
執行役員	白　忠烈
執行役員	梅田　彰
執行役員	松本　亮
監査役	待鳥　啓信
監査役	髙橋　誠一
監査役（社外）	浅田　千秋
監査役（社外）	大塚　一実

株式の状況 2014年6月30日現在

発行可能株式総数	普通株式	100,000,000株
	A種種類株式	1,500株
	B種種類株式	37,500株
発行済株式の総数	普通株式	49,355,938株
	A種種類株式	1,500株
株主数	普通株式	15,758名
	A種種類株式	1名

所有者別株主数（普通株式） 合計15,758名

自己株式：1名

大株主（普通株式）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
TAIYO FUND, L. P.	8,242	16.70
日本生命保険相互会社	3,242	6.57
株式会社みずほ銀行	1,916	3.88
株式会社三井住友銀行	1,864	3.78
TAIYO HANEI FUND, L. P.	1,154	2.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,117	2.26
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	984	1.99
株式会社三菱東京UFJ銀行	910	1.84
アルバック持株会	904	1.83
稲畑産業株式会社	795	1.61

（注）持株比率は自己株式（3,022株）を控除して計算しております。

所有者別株式数（普通株式） 合計：49,355,938株

自己株式：3,022株

株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	9月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当　6月30日
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	TEL.0120-782-031（フリーダイヤル） 受付時間 9：00～17：00（土・日・祝祭日を除く） 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

住所変更など諸手続のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申し出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

三井住友信託銀行株式会社への
手続用紙〈住所変更・買取請求・配当金振込指定など〉のご請求
ホームページアドレス　http://www.smtb.jp/personal/agency/

HPのご案内

当社ホームページでは、最新のニュースや技術情報など、当社をご理解いただくためのさまざまな情報を提供しております。

http://www.ulvac.co.jp/

アルバック　検索

ULVAC　株式会社アルバック

本社・工場
〒253-8543　神奈川県茅ヶ崎市萩園2500　TEL.0467-89-2033